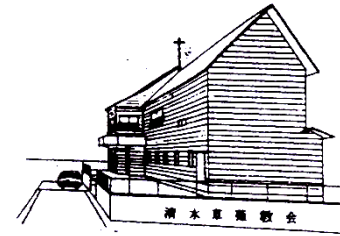


《今朝の聖書から》

今朝は罪について聖書から学びましょう。“罪”という言葉についてはだれもが知っています。“どれくらいの罪に値するか”とか“罪と言えほど、大げさなものではない”、“罰せられたからといって、罪がなくなるわけではない”とか、日常生活のいろんな場面で、私たちは罪という言葉を目にします。クリスチャンの中には“ローマ人への手紙6：3”を思い出す人も多いでしょう。“罪の支払う報酬は死である。しかし、神の賜は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである”というみ言葉です。そしてこの罪という言葉が、実におおきいのです。悩まされるほどに大きくなってしまっていることもあります。洗礼を受けた時に“あなたの罪は赦された”という宣告を受けますが、それはキリストの贖いの故のもの。その後の罪は贖われることはない、“これからは罪を犯さないように(ヨハネ8：11)”というみ言葉も心に浮かぶのです。何度このように自らの罪について思いだしてみても、救いの契約であるはずの“聖書”が、ますます悩みの原因になったりすることもあります。しかし主イエスは、今朝の個所で、“あなたがたが信じなければ、罪のうち死ぬことになるからである(よはね8：24)”と、解答を与えてくださっているのです。最大の回復困難な罪とは、主の贖いを生涯にわたって拒み続けることであることを、先のロマ書の個所から学ぶべきです。神の賜と示されていることです。30節に“多くの人々がイエスを信じた”とあります。多くのユダヤ人は何が分かったのでしょうか。“真理を知り、滅びを含むすべての物からの自由を期待しよう”と決心した人々です。そして期待して質問します。“我々はアブラハムの子孫であるという、名誉な者たちであるのに、すなわち自由な者たちであるのに、あなたはなぜ自由を得させると仰るのですか”というのがその問いです。この問いは今に至るまで、信仰者の証が突き当たる壁になっています。“あなたは私の罪などについて、なぜ語る資格があるのか”という拒否です。イエス様は、“あなたがたは、罪の世とともに、悪の多いこの世に依存していくなら、この世とともに、解放されることなく死んでしまうでしょう”と言われるのです。私たちは、罪と言えりようなもの(御心に反する事柄)を携えつつ聖餐にあずかります。しかしはるかに罪の力に勝って、神が奴隷の世界から、救ってくださるのです。受難・イースター・ペンテコステと、知るべきことは私たちに多いのです。

週報

2008年 1月 20日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。

使徒行伝16：31

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

T 424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸